

月の花挽歌 ～10. ^{がつざん}月山～

10. ^{がつざん}月山

10- 1

大御所俳優Tの陰しさを増していく表情の裏側をいち早く酌み取った令子は、真紀に目配せしてから横田に訊ねた。

「失礼ですが、横田先生は、何を仰られたのでしょうか？皆さんにはどう伝わっているのか……。お友達が「君の瞳に乾杯」と言われたことに、ホザクなどと乱暴な言葉遣いをされましたが、その訳をお聞かせくさいませんか？」

微笑む玲子の口調は淡々としているが、どこかに冷徹さを潜ませている。

「私としたことが……。申し訳ない。ご存知かと思いますが、ハンフリー・ボガードが映画『カサブランカ』の中で言った名台詞“君の瞳に乾杯”を引用して悪ふざけをした男のことなんです」と横田は探していた色を忘れた頃に偶然見つけられた時に似た感懐を持って答えた。

「もう一つお聞きしてもかまいませんか？」

「私に分かることでしたら」と横田は湿り気を帯びた声で言った。

「ハンフリー・ボガードの名台詞を乱入させて、いささか迷惑をかけることになったのは横田先生のお戯れですか……。そういうことなのですね？」と令子は訊いて、眼の底で微笑んだ。

「戯れなんかではありません。数日前に皆さんが、今、座っている同じ席での話です」と横田は顔を僅かに歪めて言った。

「君にはまだよくわかっていないようだ」とTは横田を射るような目で見てから、真紀に何とかしないかという微妙な表情を向けた。

乱酔の中で、横田は目覚めようともがいていた。真摯であろうとしようとするほどに朦朧が立ち現れた。

気がつけば、長身の人気男優は真紀の隣に移動していて、さり気なく口説いている。

「すみません。すみません。あの、すみません！」と横田は令子やTに真面な対応ができたかどうか頭片隅へ追いやって、長身の人気男優に向かって、闇雲に連呼していた。

脱ぎっぷりのいい女優に、そのことを示唆された人気男優は、横田を邪魔くさそうに一瞥したが、仕事柄、多彩な芸術家たちと交流の際に厄介な酩酊状態と付き合いされてきたこともあり、無難にやり過ごすための顔を作ることができた。まるで中国の伝統芸能の仮面劇のようにして。